

# F-17 家庭経営の変動に関する生活史的研究(1) 一福島県郡山市湖南町調査を例

として一研究の意図とその理論的展開(1)

郡山女大家政。関口富左 東北福祉大 竹内利美

目的 1) 社会の激変のなかで、生活の様態も亦激しく変化をきたす。この生活の変容を家庭生活における経営の面より把え、その史の実態を探り、そこに生活の法則性を求める。 2) 家政学における一領域としての生活史の在り方を探る。 3) 家庭生活の総合性に対する解明のための総合研究の方法的究明。

方法 1) 理論の構成による演繹的方法 2) 実態よりの帰納的方法とにより主題に迫る。 3) 家政学各部門(原論、家族、経営、経済、食物、被服、住居、教育等)の研究による総合的研究 4) 聴取り法等実態調査については、仮説的理論により項目を設定し、三代に亘る主婦の家庭生活についての面接調査により行う。

結果 本報においては未だ理論の検証には至らない。一応の概括的推論をすすめるならば、家庭経営変動要因として、家庭内変動因子の種別的構造と、家庭外変動因子の波動的構造との相互的作用において生活実態の変容がみられる。家庭内変動因子としては、主婦の家庭経営能力を中軸とする主要因と、家庭内の人的物的変化の副要因との咬合のなかで変動をきたすことを「原変動」とみたい。さらに時間的、空間的変動要因が加わることにおいての変動を「二次変動」とみる。家庭経営の変動という主題に迫る仮説としての立論として、果して実証に耐えうるか否か、今後にまち論じてみたい。